



JAPAN ASSOCIATION FOR THE
IMPROVEMENT OF CONDITIONS OF
WOMEN SCIENTISTS

JAICOWS Newsletter

No.43 (2022.6.1発行)

会長ご挨拶 「支援のその後」を探る

井野瀬 久美恵

JAICOWS会員の皆さま、お変わりございませんか。

去る3月26日、コロナ禍ゆえに今年もZoomによるオンラインになりましたが、総会を無事に終えることができました。総会後には、河野銀子先生によるご講演「女性研究者支援政策の国際比較」が開催されました。総会並びに講演会にご参加いただいた皆さまには、この場を借りて御礼申し上げます。

『女性研究者支援政策の国際比較——日本の現状と課題』（明石書店、2021年）の編者でもある河野先生のご講演を聴きながら、私は、日本における女性研究者支援の来し方行く末に思いをさせました。ジェンダー平等実現をめざす自然科学系の学協会連絡会をモデルに、人文・社会科学でも「ギース（人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会、GEAHSS）が動き始めて今年で5年目を迎えます。ジェンダーを意識した統計データをベースに、女性研究者の数の増加とともに、女性にとって働きやすい研究環境を実現すべく、組織文化の体質改善に対する支援がいろいろ進んでいるはず…と思った次の瞬間、はたと疑問が湧きました。これまでの支援プログラム、たとえば、2006年度からスタートした「科学技術振興機構によるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ／女性研究者研究活動支援事業」の終了後、支援された内容はどうなったのだろうか。「支援のその後」もその情報も、各大学、各研究組織で止まっている？あるいは、学内や研究組織内部でも共有されていないのではないかと。「支援のその後」がさまざまに懸念されます。

こうした懸念を第1回役員会（2022年5月30日）で議論し、2022年度は「支援のその後」を調査してみようということになりました。さらには、ジェンダー平等を含むダイバーシティの観点から、若手研究者の現状に関する意見交換も行いたいと思っています。

昨年度の終わりには、JAICOWS独自のHPが整備されました。今後はこのHPにJAICOWSの活動や諸情報をアップしていきます。皆様もどうか、折に触れてアクセスしてみてください。

2021年度JAICOWS講演会（報告）

女性研究者支援政策の国際比較

河野銀子先生（山形大学学術研究院教授・日本学術会議連携会員）

はじめに、JAICOWSで講演する機会をいただいたことに御礼を申し上げる。この数年、女性研究者の実態やその支援政策を研究していた筆者にとって、女性科学研究者の環境改善を牽引してきた貴会で話す機会を得たことは大変な光栄であった。

筆者の専門は教育社会学で女子・女性の進路選択・キャリア形成を主たるテーマとして研究してきたが、講演では昨年出版した『女性研究者支援政策の国際比較』（明石書店）をベース

に話した。本書では、米国・EU・中国を対象とし、女性研究者の実態と女性研究者支援政策の変遷を捉えることにより、日本の現状と課題を検討した。さらに、口述史資料や、米国や中国、日本で実施したインタビュー調査を手掛かりとして、政策立案の舞台裏を探った。専門分野や年代等が多様な6人の研究者が、それぞれの知識や経験を活かした共同研究の成果であるが、本稿では筆者の執筆部分に基づきながら述べていく。

ジェンダー平等をめぐる日本の政策が男女共同参画政策として展開してきたこと、政策的に推進してきたにもかかわらず世界の中でジェンダー不平等な国¹として位置づいていること、また「2020年30%の目標」の達成が困難とわかった政府が「2020年代の可能な限り早期」と期限を延長したことなどはよく知られていると思う。

科学技術分野において男女共同参画が明確に政策として位置づけられたのは、2005年12月に閣議決定された男女共同参画基本計画(第2次)と2006年3月に閣議決定された科学技術基本計画で、いずれも初めて数値目標²が掲げられ、さらに2006年度予算においては当該分野を推進する経費が初めて計上された。この中核的施策として、女性研究者の増加や、離職防止を基本的な目的とする「女性研究者支援モデル育成」がJSTにより開始され、競争的資金による事業として名称や内容を少しずつ変えながら現在に至っている。1977年に日本学術会議が「婦人研究者の地位の改善について」要望を出してから予算化まで、30年という年月を要したことに驚きを禁じ得ない。

では、この事業は女性研究者を増やす効果があったのだろうか。総務省「科学技術研究調査」(2020)によれば、女性研究者数は15.9万人(94.2万人中)、研究者に占める割合は16.9%で過去最高となった。2000年には10.6%、2010年には13.6%であったので、女性割合は確かに上昇している。ところが、最初的女性研究者支援事業の効果が出始めると想定される2009年度以降7年間の女性研究者の年平均増加率(CAGR)と、その前の7年間とを比較したところ、むしろ増加は緩慢になっていた(序章より)。CAGRで見ると限り効果が出ているとは言い難い。

個々の大学を見れば女性研究者が増加した大学がある一方で、そうでない大学もあるということであろう。筆者の勤務大学でも、女性限定公募による採用や研究に専念できる環境の提供などの努力をしているが、女性割合は向上しない。ある程度の期間が過ぎれば夫の居住地に近い機関へ異動したり、輝かしい業績を上げて研究大学へ転出しているケースがあると聞く。そもそも限定公募をしても応募者が0人や1人ということもあり、地方の非研究大学は苦戦している。こうした状況は、工学を除く理系分野では新規採用者に占める女性割合が博士課程の女性割合を上回っていることの影響が考えられる(河野2020)。パイの奪い合いが生じている可能性もあるため、詳細な分析が待たれる。本書で紹介した米国アカデミーや欧州委員会による厳格な事業評価が参考になるだろう。

欧米では、“選ばれた”女性を対象に男性研究者を標準とするキャリアモデルの形成を支援しても女性研究者が増えなかったことが明らかにされ、女性個人への支援策から組織や知識のジェンダー主流化へと軸足を移した。結局のところ、大学・研究機関の組織文化や科学研究・研究開発の在り方が変わらなければ、女性の研究継続は難しいということであろう。日本もこうした動向を参考にすべきと考えるが³、国際比較を通して日本の状況の深刻さを痛感した。欧米では1990年代までに、中国では2010年前後に、学部・修士の女性割合が男性を上回っており、それが女性研究者の増加政策の基盤となってきたが、私たちはこの景色をまだ見ていない。博士課程学生数が減少傾向にある中で女性割合は微増しているものの、いまだ30%台、修士課程でも30%程度である。学部以前、とりわけ中等教育でジェンダー平等が進まなかった結果と思われる。大学・研究機関だけでなく学校教育においても組織や知識のジェンダー主流化を進めることが、遠回りに見えても着実な方策ではないだろうか。

<参考文献>

- 河野銀子, 2020.11.21.「理系の男女格差が縮まらない日本の問題点」朝日新聞社『論座』
(<https://webronza.asahi.com/science/articles/2020110400003.html>)
1. 世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数は156か国中120位(2020)。世界銀行によるWBLインデックスでは190か国中103位(2020)。
 2. 数値目標は採用者に占める女性割合を自然科学系全体として25%(理学20%、工学15%、農学30%、保健30%)。
 3. 「女性研究者支援」は大学等の研究機関を対象とする事業であるが、採択機関の多くは研究支援員の配置や学会時の旅費や託児費の部分負担など個人型支援を行っている。



河野銀子・小川眞里子編著：横山美和・大坪久子・大濱慶子・財部香枝著

<https://www.akashi.co.jp/book/b597152.html>

2021年度JAICOWS総会議事録

日時：日時：2022年3月26日（土）10:00～10:30（予定）
 場所：オンライン会議システム（zoom）による開催

会長挨拶、開会宣言、議長選出
 <議事>

1. 2021年度活動報告

井野瀬会長より以下の活動報告がなされ、承認された。

1-1 会員数109名（前年度3名減）

1-2 総会・役員会・研究会

・2020年度総会

日時：2021年5月30日(日) 15:00-15:30 (Zoom開催)

議事：2020年度事業報告、会計報告、2021年度事業案、予算案等

・研究会「ブックレット『非常勤講師はいま！』刊行記念公開講演会」

日時：2021年5月30日(日) 15:30～17:30 (Zoom開催)

発表内容：羽場久美子（青山学院大学名誉教授、神奈川大学教授）

「コロナ下で、非常勤講師を考えることの重要性」

直井道子（東京学芸大学名誉教授）

「統計分析の結果より」

袖井孝子（お茶の水女子大学名誉教授）

「自由回答の分析結果より」

・役員会

日時：2月14日（月）13時～14時（Zoom開催）

議事：研究会企画、総会準備、役員交代等について

1-3 ニュースレター（42）号発行

1-4 新ホームページの開設

1-5 ブックレット『非常勤講師はいま！』問い合わせへの対応・送付（8件）

2. 2021年度決算案

海妻事務局長より決算報告案が示され、浅倉監事による監査報告がなされ、原案が承認された。

（承認された決算報告書は4頁参照）

3. 2022年度事務局長の交代

海妻事務局長が岩手大学副学長就任に伴い業務遂行が困難となるため、井野瀬会長より事務局長を来田享子氏（中京大学）とすることが提案され、承認された。

4. 規約の一部改正

井野瀬会長より、以下のとおり規約14条を改正することが提案され、承認された。なお、2022年度の会計年度のみ、変則的に4月～12月とすることが併せて承認された。

（現行）「本会の会計は会費・その他の収入をもって運用される。本学会の会計年度は4月に始まり、3月に終わるものとする。」

（改正後）「本会の会計は会費・その他の収入をもって運用される。本学会の会計年度は1月に始まり、12月に終わるものとする。」

改正の理由：会計監査に必要な時間を確保するため

5. 2022年度活動計画案

井野瀬会長より、以下の活動計画案が示され、承認された。

1) 役員会の開催

2) 総会の開催

3) 研究会・シンポジウムの開催

4) ニュースレター（43号）の発行（ウェブ掲載）

5) その他

6. 2022年度予算案

海妻事務局長より決算報告案が示され、承認された。

（承認された予算案は5頁参照）

議長解任、閉会宣言

以上
 （書記 来田享子）

<2021年度決算報告書（2021年4月1日-3月31日）>

2022年3月18日現在

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2021年度予算	2021年度決算	予算比	備考
会費	450,000	405,000	-45,000	
利子	0	0	0	
寄付金等	160,000	219,680	59,680	ブックレット非常勤組合買取分等含む
前年度繰越金	778,855	778,855	0	記載ミスを修正:538,103円
収入合計	1,388,855	1,403,535	14,680	

2. 支出の部

単位:円

勘定科目	2021年度予算	2021年度決算	残高 (決算-予算)	備考
通信費	30,000	9,370	20,630	郵送代・宅急便代
Newsletter印刷費	90,000	7,902	82,098	42号（制作費・封筒代・発送作業費）
Newsletter発送費	20,000	8,400	11,600	42号郵送費
行事費	50,000	20,000	30,000	河野さん講師謝金
会議費	10,000	0	10,000	弁当代等
事務費	50,000	66,000	-16,000	HP構築・作業費等
学会業務委託費	50,000	0	50,000	
2020年度会計特殊業務 (ブックレット制作費)	360,000	351,974	8,026	2020年度未執行分351974円を執行
消耗品	20,000	0	20,000	印刷用紙、宛名シール等
振込手数料	5,000	3,080	1,920	銀行ATM660円、郵振手数料2090円、ゆうちょダイレクト送金165円×2
予備費	0	264,000	-264,000	HP移転・リニューアル費用
小計（支出科目計）	685,000	730,726	-45,726	
次年度繰越金	703,855	672,809	31,046	
支出合計	1,388,855	1,403,535	218,274	

郵便振込口座残高	614,440	※2021年3月30日時点での銀行残高が219,355円、ヨシミ工産への先行支払い119,654円と手数料660円で残額99,041円
銀行口座解約時点での残高※ (2021年3月30日時点)	53,369	
手持ち金	5,000	
合計	672,809	

<2022年度予算案（2022年4月1日-12月31日）>
規約改正にともなう移行措置のため上記期間の予算案

2022年3月31日現在

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2021年度予算	2022年度決算	前年比	備考
会費	450,000	300,000	-15,000	
利子	0	0	0	
寄付金等	160,000	0	-160,000	
前年度繰越金	778,855	654,809	-124,046	
収入合計	1,388,855	954,809	-434,046	

2. 支出の部

単位:円

勘定科目	2021年度予算	2022年度予算	前年比	備考
通信費	30,000	15,000	-15,000	2021年度執行実績額にもとづく
Newsletter印刷費	90,000	0	-90,000	ウェブ化にともない事務費に組み込む
Newsletter発送費	20,000	0	-20,000	同上
行事費	50,000	50,000	0	講師謝金等
会議費	10,000	10,000	0	会場費等、2021年度執行実績値にもとづく
事務費	50,000	80,000	30,000	HP管理・サーバー代等2021年実績値66,000円、ニュースレター作成費
学会業務補助費	50,000	50,000	0	回避請求督促業務等謝金
2020年度会計特殊業務 (ブックレット制作費)	360,000	0	-360,000	今年度は予定なし
消耗品	20,000	20,000	0	印刷用紙、宛名シール等
振込手数料	5,000	5,000	0	2021年度実績にもとづく
予備費	0	30,000	30,000	
次年度繰越金	703,855	694,809	-9,046	
支出合計	1,388,855	954,809	-434,046	

現在の役員

会長 井野瀬 久美恵
副会長 小浜 正子
事務局長 来田 享子
役員 廣瀬 眞理子
伊藤 美千穂
内藤 忍

JAICOWS事務局

(2022年度から変更しています)

〒470-0393

愛知県豊田市貝津町床立101

中京大学スポーツ科学部 来田享子研究室

Tel. 0565-46-6568

jaicows_office@jaicows.org

会費振込口座

口座名義：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
郵便振替口座番号
00160-5-421146
銀行振込の場合
ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店
当座0421146